

メルマガ 第4号 吉村順三記念ギャラリーの展示企画と★愛知芸大見学会★をご案内いたします。 2010FIFA World Cup South Africa も Spain の優勝で終了。梅雨も もうすぐ明け 子供たちも夏休み、皆様も有意義な夏の計画を立てておられると思います。

\*\*\*\*\*

吉村順三記念ギャラリーは

★★☆ J YMG 小さな建築展 第22回☆☆★

「 御蔵山の家 」展を

6月26日(土)から8月1日(日)迄の

各土曜日・日曜日 午後1時～6時まで

開催しております。

吉村がローコストに挑戦した小住宅です、その後二回増築さらに改装され 40年以上たった現在でもほとんど当初の姿をとどめ、お施主さんはさわやかにお住いです。

\*\*\*\*\*

御蔵山の家

1966年

京都府宇治市木幡

「木綿のような着心地の家にしましょう。」

吉村順三がお施主さんにこういったそうです。

住いの心地良さを晴れ着の絹ではなく、ふだん着の木綿に例えた吉村の姿勢が感じられる言葉です。若い頃から住宅に興味を抱き生涯に亘る設計活動の中心が住い造りであった彼の、当時としては孤高ともいえる設計への意欲が溢れています。完成したのは、コンクリートで造られた、シンプルで小さな箱の16坪の家。ローコストの条件のもとで17種類の基本案が考えられ実施案に辿り着くまでの2年間に様々なチャレンジとアイデアが。途中案には「ちょっとこれは・・・」「やはり木造か」という案も。最近の見学で、お施主さんの拒否に会った途中案もあったという意外なこぼれ話も聞くことが出来ました。完成後44年を経るこの住いは、住み手家族の変化に応じた増築が二度、改築が一度施され、後に気付いた細部の不具合に対しての改良も行っています。成長し変化する住いを予見し、永続的に住み手と関わる責任が建築家にはあるのです。当初の工事監理に携わり、後に二回目の増築を設計した美建設計の石井修氏は、当時の吉村の仕事ぶりについてこう述べています。

「原寸図を含むたくさんの図面、徹底した厳しい現場管理に触れ 建築家としての責任を強烈に教えられた。」小さな住いにも関わらず、たくさんの図面が書かれました。ほとんど全部の図面、増改築の過程のイラスト、竣工時と現在の写真を展示しました。

(文責 藤井 章)

吉村順三記念ギャラリー

担当 秋山信行 上田悦三 藤井 章

■この展覧会について詳しくは

→ <http://www.sepia.dti.ne.jp/jymg/>

\*\*\*\*\*

★★緊急連絡★★

★★☆愛知県立芸術大学一般見学会の申込み☆★★

日 時 2010年7月17日(土)  
午後1時から午後3時まで

愛知県立芸術大学主催の見学会があります。良いチャンスですので参加してください。  
アンケートをとるそうです。みなさんの率直な感想を書いてきて下さい。

◎申込みは 愛知県立芸術大学ホームページ 申込みフォーム から

→ [http://www.aichi-fam-u.ac.jp/events/form\\_h22](http://www.aichi-fam-u.ac.jp/events/form_h22)

検索エンジンで「愛知県立芸術大学一般見学会」の申込みと検索すると  
「申込みフォーム」へ たどりつき、申込み出来ます。

◎電話による申込み

担当 愛知県立芸術大学管理部管理課 (大久保、高瀬)

電話 0561-62-1180

期間 7月12日(月)から7月16日(金)まで

時間 午前9時から午後5時まで

● 100人で〆切 といっておられますから お早めに

見学概要

集合場所等 愛知県立芸術大学 新講義室に1時前集合

(講義棟 奏楽堂 大学会館 図書館 芸術資料館 美術・音楽学部棟 等々)

アクセス <http://www.aichi-fam-u.ac.jp/about/access>

(名古屋駅から約1時間の距離です。)

